

視察報告と情報発信

「実質0円」で建設した豊島区役所 《ハコモノ事業に一石》



新庁舎の外観

外壁に太陽光発電パネル、緑化パネルを配置
1階から9階まで区庁舎、
11階から49階が住居部分



緑化パネル、太陽光発電パネルの配置状況



1階総合案内

○新庁舎の主なバリアフリー設備

- ・ 出入口に音声誘導装置
- ・ 障がい者に配慮したエレベーター
- ・ 多機能トイレ等

話題の豊島区役所を見てきました。豊島区役所は平成27年5月から新庁舎での業務をスタートしています。

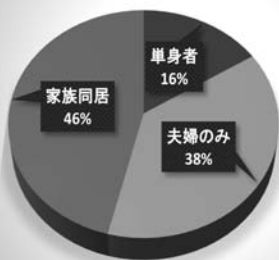
旧豊島区役所は1961年に竣工したものであったため、老朽化が著しく、東日本大震災で壁や柱が損傷するなど建替えは急務でした。しかし、区の財政状況は厳しく、建設費をどのように捻出するのか考えなければなりませんでした。

そこで、区の担当職員らは再開発地区にあった区の学校施設跡地を活用して、再開発の権利交換や旧区役所跡地の地上権設定、地権者住戸を除く322戸を分譲マンションとして販売するなどの工夫を行い、総工費430億円のうち区の財政支出は実質0円で地上49階、地下3階の新庁舎を完成させました。

砂川市においても新庁舎建設の議論が来年度から本格的に始まります。もちろん、豊島区のような地価の高い都市部と砂川市を単純には比較することはできませんが、知恵を絞り、税金を使わないで新庁舎を建てた自治体が存在しているという事例を紹介しました。

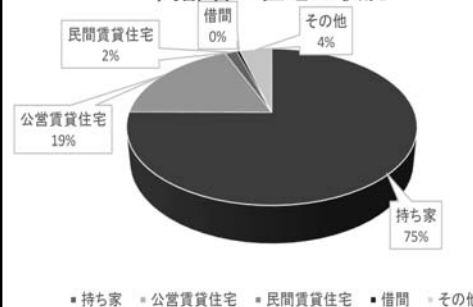
砂川市の高齢者の住宅事情

平成26年度高齢者世帯状況



■ 単身者
■ 夫婦のみ
■ 家族同居

高齢者の住宅の状況



■ 持ち家 ■ 公営賃貸住宅 ■ 民間賃貸住宅 ■ 借間 ■ その他

砂川市内には、65歳以上の高齢者は平成26年12月末現在、6,345人います。世帯状況を調べると、夫婦のみの場合は1,189世帯(38%)、独居世帯は1,013人(16%)です。また、左のグラフのように、その75%が持ち家に住んでいます。

子育て中には必要だった広い一戸建て住宅は高齢になると共に大きな負担になっていると話される方が多いです。そのため、さらに「空き家」が増える可能性が高くなると考えられます。

左の写真はサービス付き高齢者向け住宅(サ高住)で、これまで市内には一カ所もありませんでしたが、昨年は宮川地区に「じけい」(特定施設)が、そして、今年も晴見地区に「ガーデンりんごの里」が入所可能になります。

以前より高齢者の住居事情は良くなりましたが、サ高住の入居費用は単身で14~5万円/月必要となりますので、今後は、住宅を若者世帯に賃貸することで収入を増やすなど「空き家」の有効活用と低所得の高齢者向け住宅の検討も必要になると考えています。



サ高住「じけい」



サ高住「ガーデンりんごの里」



市民の声 所属議員

小黒 弘

議会運営委員長
総務文教委員
中空知広域水道企業団議員



市民の声 所属議員

武田 真

社会経済委員
議会広報編集委員

発行にあたり

砂川市議会では議員一人に対して月1万円の政務活動費が交付されています。

「市民の声」は「市民の声だより」を発行し、有効に活用させていただいています。

皆さまからの読後のご感想、ご意見などいただければ幸いです。